

## 相模湾・東京湾における最近のタイマイの記録

中村 一 恵

熱帯産のタイマイ (*Eretmochelys imbricata*) が相模湾や東京湾から記録されることは比較的少なく、正式に報告されたのは中村・川瀬 (1976) による 4 例が最初であろう。最近になって再び相模湾と東京湾で本種 2 個体が捕獲されたので収録しておく。いずれも新聞報道による記録で、筆者は実見できなかったが、新聞掲載の写真から判定して誤りなく本種である。以下の記載はいずれも神奈川新聞の記事に基づくものである。

第 1 例：1977年12月24日 三浦郡葉山町，名島沖の定置網に生きてかかり，江の島水族館に収容された。甲長 37cm，体重 6 kg (1977年12月25日付)。

第 2 例：1979年12月21日，横須賀市泊町沖 200 m。カレイ刺し網に生きてかかる。横須賀市東部漁協の水槽に一時収容された後，安浦港から海に放たれた。甲長約 60 cm，体重 25kg (1979年12月22日付)。

表 1 は日本海に漂行ないし漂着したタイマイの甲長組成である。この表から 40cm 以下 20cm までの個体が多く，10~20cm と 40~50cm で少なく，10cm 以下と，50cm 以上はまれであることがわかる。これらの記録を地理的にみてもみると，甲長 40cm 以上のものは北緯 35 度から 36 度以南に集中し，以北のものは 40cm 以下である。小さな個体ほど北上している事実は注目に値する。西村らの記録のうち例外的に大きいのは，甲長 54cm と 75cm のものであるが，前者は採集年月日は不詳であるし，採集地の隠岐島にも疑問符がついており，記録としての価値は低い。後者は 1964 年 8 月，下関市安岡町で捕獲されたという 1 例である。西村らも指摘するように，日本海に出現したタイマイとしては例外的に大きな個体である。

タイマイの 1 年級の甲長範囲は 18~27cm，2 年級は 28~36cm で，ふ化後 1 年および 2 年で平均甲長はそれぞれ 23cm，33cm である (梶原・内田，1974)。従って日本海に出現するタイマイの多くは，甲長からいえば 1 年級ないし 2 年級に相当する若年のものである。太平洋側では西村らによるような詳細な記録の収集と検討はなされていない。しかし相模湾と東京湾産のタイマイ 4 例の甲長は，

それぞれ 26.8cm，28.0cm と，推定約 35cm のもの 2 例である (中村・川瀬，前出) ことから，西村らも指摘するように，日本海同様，太平洋側へ漂行するタイマイも若年群であることが予測される。甲長 70cm 以上のタイマイは成熟個体である (CARR et al., 1966)。今回の第 2 例の甲長約 60cm という数値はいかにも大きい。幸いにも東京新聞横浜支局のご好意で写真を検討する機会があり，大きさの推定ができた。写真 (図 1) に写っている人の中指の大きさから推定して，この個体の甲長は 45cm 程度で，甲長約 60cm というのはほぼ全長に等しいものであろう。過去の記録同様，このタイマイも若年個体であったらと思う。

知る範囲ではこれで相模湾，東京湾からのタイマイの記録は 6 例となったが，今後も記録されるだろう。正確な測定値を添えたできるだけ詳細な記録が残されることを望みたい。若年タイマイの生態・移動に関する重要な情報を提供することになるものと思う。

終りに写真を提供下さった東京新聞横浜支局に深く感謝する。

表 1. 日本海産タイマイの甲長組成 (N=29)  
Nishimura et Yasuda (1967) より作成

CL(cm)	N
>10	1
10~20	4
20~30	12
30~40	7
40~50	3
50~60	1
60<	1
	29

引用文献

CARR, A, HIRTH, H. & OGREN, L. 1966 The ecology and migrations of sea turtles 6. The hawksbill turtle in the Caribbean Sea. *Am. Mus. Novit.*, 2248, 1-29.

梶原武・内田 1974 東南アジアにおけるタイマイの生態と漁業. 爬虫両生類学雑誌 5(3): 48-56.

中村一恵・川瀬ツル 1976 三浦半島周辺で捕獲されたウミガメ2種とウミヘビ1種について. 横須賀市博物館館報 22: 37-40.

NISHIMURA, S. and YASUDA, T. 1967 Records of the hawksbill Turtle, *Eretmochelys imbricata* (LINNE), in the Japan Sea. *Publ. Seto. Mar. Biol. Lab.* 15(4): 297-302.

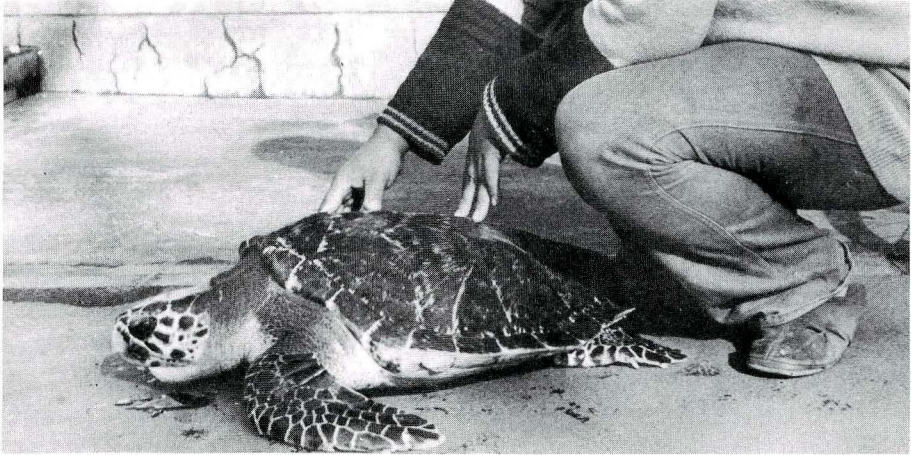


図1: タイマイ (東京新聞提供)

エラブウミヘビの記録

1976年11月21日, 三浦市菊名の海岸にある網小屋で全長90cm (推定) のウミヘビが捕獲され, 油壺マリンパークに収容された。7mm ぐらいの小型フジツボが2~3個頸部付近に付着していた (以上, 竹内経久氏による)。このウミヘビを竹内氏のご好意でみせていただいたが, エラブウミヘビ (*Laticauda semifasciata*) であった。

黒潮に乗って相模湾・東京湾まで北上してくるウミヘビ科のヘビは種類も量も少なく, これまでセグロウミヘビ (*Pelamis platurus*) とクロガシラウミヘビ (*Hydrophis melanocephalus*) の2種が報告されているにすぎない。エラブウミヘビの記録はみあたらないので, 簡単に報告し, 中村・川瀬 (1976) と中村 (1977) による相模湾・東京湾産海棲爬虫類の追加とした。

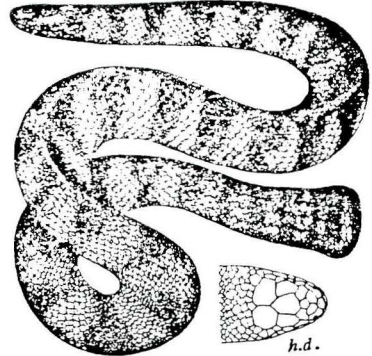
情報をお寄せ下さった油壺マリンパークの竹内経久氏に厚くお礼申し上げます。

文献

中村一恵・川瀬ツル 1976 三浦半島周辺で捕獲されたウミガメ2種とウミヘビ1種について. 横須賀市博物館館報 22: 37-40.

中村一恵 1977 三浦半島で捕獲されたアオウミガメ. 横須賀市博物館館報 23: 33.

(中村一恵・県立博物館)



エラブウミヘビ 北隆館日本動物図鑑(下)より